

令和3年度東京都立小金井工業高等学校 学校経営報告

東京都立小金井工業高等学校長  
白鳥 靖

1 令和3年度学校経営計画の実施結果（概要）

昭和14年以来、70年以上の歴史をもつ本校は、平成22年度に定時制単独課程の工業高校となり、新たなるスタートを切った。平成22年度に開校した都立多摩科学技術高校と共用する校舎施設工事も、運動場が平成26年度に完成したことで、全ての施設・設備を活用した教育活動を実践することが可能になった。

今年度は、進級率（全体）90%以上、1学年進級率80%以上を目標とし取り組んだ結果、進級率（全体）100%、1学年進級率100%と目標を達成することができた。進路決定率については、残念ながら100%とはならず1名の進学準備を残し93.3%であった。

次年度は、引き続き進級率の向上と進路実現を目指すとともに、キャリア教育の充実を図ってきたい。具体的には、企業見学等を通して職業意識を醸成するように工夫し実践する。

2 今年度の取組と自己評価

本年度の活動目標と主要方策別に振り返りを行うとともに、次年度取り組むべき課題を整理した。

(1)「教育活動の目標と方策」に対する結果と次年度への反映

活動目標	本年度（R3）の主な方策	取組結果 (○：達成、△：一部達成、×：未達成)	次年度への取組課題
①学習指導の充実	(1) 授業時数の確保とともに、基礎学力の定着 ・授業時数の確保 ・teams等のICT機器を活用した教科指導上の工夫	【○】 Teams等のICTの活用及びAL型授業を実施し、指導の工夫を図ることができた。	・生徒の興味関心を引き出す工夫を行うことで、授業への積極的な参加を促し基礎学力の定着を図る。
	(2) 学習指導上、配慮を必要とする生徒への具体的支援 ・補習や講習の実施、学習評価上の工夫	【○】 生徒個々に応じた補習や補講を実施することで、学習習慣や意欲の向上を図ることができた。	・課題のある生徒については、個別補習をさらに充実させる。
	(3) 専門高校としての教育課程の確実な実施と充実	【○】 実習などの体験型の授業により、専門高校としての教育課程を実施することができた。	・専門高校としての特色化を図る取組を継続するとともに生徒の主体性を高める工夫を行う。
	(4) 授業力の向上に向けた取組 ・教員相互の授業参観等を促進、授業力の向上を図る。	【○】 教員相互の授業参観を実施し、授業改善につなげることができた。	・アクティブ・ラーニング等の取組をさらに推進し教員全体の授業力向上を図る。
	(5) 各授業の出欠状況の確実な把握とともに、授業担当、担任、保護者の連携による指導の充実	【○】 生徒の出欠状況に応じて保護者との連絡を密にとるように努力している。	・年度当初から、保護者との連絡体制の構築を行うとともに、教職員間の連携強化を図る。
	(6) 専門高校の特色を活かした資格取得の実施 ・資格取得を目指した講習の実施	【○】 教科、部活動を中心に、取得の指導が実施できた。	・継続した取組を行うことでさらに資格取得を充実させる。

活動目標	本年度（R3）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
①学習指導の 充実	（7）オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・学校の特色に応じた年間指導計画の作成及び実施	【○】 オリパラ委員会が企画し文化祭において公演を実施した。	・引き続き、東京 2020 大会以降のレガシーを見据えた取組を行う。
②進路指導の 充実	（1）進路決定に役立つ企業（学校）見学会や就業体験の実施	【○】 初の取組である企業見学会を実施することができた。	・今年度の取組をさらに充実させていく。
	（2）進路決定率向上に向けた進路情報の効果的な提供 ・外部専門機関や企業との連携による説明会の実施 ・求人票等の情報を生徒に提供する上での諸改善	【○】 進路指導部と第4学年の連携により、進路決定率 93.3%を達成した。	・継続する。
	（3）特別な支援を必要とする生徒の進路実現に向けた専門機関等との連携促進	【○】 労働法規や社会のルール、進学にかかる学費、就職に必要な資格、ガイダンス実施。	・生徒が規則正しい高校生活を送り、希望進路実現が叶うようバックアップする。
	（4）進路先開拓活動の実施（新規、卒業者就職先訪問など）	【○】 延べ12社の企業訪問を実施することができた。	・卒業生就職先を訪問し、更なる連携につなげる。
	（5）資格取得率の向上・取得情報の把握	【○】 ジュニアマイスター顕彰をはじめ多くの資格にチャレンジし取得することができた。	・継続する
③生活指導の 充実	（1）授業規律と規範意識確保のための全職員一丸になっての活動。（情報共有や全職員一貫した指導）	【○】 授業規律や規範意識の確保に向けて全職員が活動するとともに、始業式等の集会では場面に応じた行動が取れるよう指導した。	・継続する
	（2）校門指導、健康観察の実施	【○】 登校時の健康観察、teams による報告等を的確に実施し、校内でのコロナ感染防止を徹底した。	・継続する。
	（3）食堂におけるルールの定着と円滑な運用	【○】 コロナ禍でのルールに沿った指導を実施し、円滑に運用できた。	・食育とともに、新型コロナウイルス感染者を出さないよう喫食ルールの徹底を継続する。
	（4）「あいさつ」指導の充実（職員率先による校風づくり）	【○】 全職員で取り組むことができた。	・引き続き職員率先による挨拶指導を継続する。
	（5）交通安全指導の充実 ・自転車の運転に関わる安全指導の実施	【○】 指導の結果、大きな自転車事故なく生徒の安全意識を向上させることができた。	・継続する。
	（6）いじめに対する総合対策の実施 ・学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制の確立	【○】 いじめのない学校づくりを目指し、体制を確立することができた。	・継続する。

活動目標	本年度（R3）の主な方策	取組結果 (○：達成、△：一部達成、×：未達成)	次年度への取組課題
③生活指導の充実	(7) 自殺対策に資する教育の推進 ・自殺総合対策大綱に基づく指導の実施	【○】 日頃の生徒観察やアンケート調査を通して指導を行うことができた。	・継続する。
	(8) 防災教育の推進 ・防災ノートやマイタイムラインの活用、消防講話の実施	【△】 避難訓練等を適切に実施したが、マイタイムライン等の活用には至らなかった。	・防災ノートやマイタイムラインの活用を推進する。
④特別活動、部活動の充実	(1) 通級指導に関する指導体制の確立 ・関係する生徒、保護者への丁寧な説明と対応	【○】 今年度から通級指導を実施し、指導体制を確立することができた。	・継続する。
	(2) ボランティア活動や地域活動の推進	【○】 「人間と社会」の授業内で地域活動を実施した。	・継続する
	(3) 積極的な部活動紹介による関心の醸成と参加率向上	【△】 生徒数の減少に伴い、部活動参加生徒も少なくなっている。	・年度当初の部活動紹介において積極的な参加を促すことが必要である。
	(4) 生徒の体力向上の推進 ・東京都統一体力テストの実施と施策の活用	【△】 体力テストを確実に実施するとともに、体育の授業内容を充実させ、運動を習慣化させる必要がある。	・継続する。
⑤保健活動の充実	(1) スクールカウンセラーと担任の連携	【○】 カウンセラーと担任の連携が図れている。	・継続する。
	(2) 特別支援委員会を中心とした特別支援教育の推進	【○】 通級指導を含め特別支援教育を推進することができた。	・継続する。
⑥募集・広報活動の充実	(1) 学校説明会への積極参加 ・合同説明会、中学訪問、体験入学などに参加	【△】 新型コロナウイルス感染症の影響により十分な説明会等を実施することができなかった。	・中学校生徒・保護者に対して、定時制工業教育の理解促進を図るため、ホームページを充実させる。
	(2) 学校紹介に関する説明用動画等の作成 ・施設・設備の魅力、生徒の活躍等の紹介	【○】 動画作成や外部機関との連携による広報活動は実施できた。	・魅力ある教育活動を広報できるようさらに工夫する。
	(3) ホームページの活用 ・生徒の活躍、施設・設備の魅力、トピックス等の紹介 ・ホームページ更新の促進	【△】 学校見学や生徒募集に関する情報は、提供できている。さらに本校の教育活動の魅力伝えることができるよう工夫する。	・学校生活の様子が分かるよう更新回数を増やし、魅力を伝えられるようにする。
	(4) 来校者対応の充実 ・接客マナーの向上、来校希望者への誠実な対応	【○】 進路指導部を中心に、企業からの来校者に対して丁寧な対応を行うことができた。	・継続する。
⑦情報管理の徹底	(1) 校内個人情報管理基準の運用徹底	【○】 研修会を通して、徹底を図っている。	・継続する。

活動目標	本年度（R3）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
⑧学校経営・ 組織体制の充 実 ⑧学校経営・ 組織体制の 充実	（１）多摩科学技術高校との日常連携の促進(各分掌)	【○】 管理職間での情報共有を実施することができた。	・継続する。
	（２）業務の効率化(計画的に行う、ムダをなくす、整理整頓)	【○】 業務の効率化が図られ、教員の定時外在校時間は少ない状況である。	・さらに計画的に業務の効率化を図る。
	（３）業務の継承とOJTを目的とした分掌内分担の実施	【○】 年度当初に分掌内分担を明確化することができた。	・継続する。
	（４）地域から信頼され、必要とされる学校づくり	【△】 地域活動は限られ、十分な連携を図ることができなかった。	・コロナ禍での実施方法を検討する。
	（５）働き方改革推進に向けた業務の効率化(計画的・組織的に実施) ・定時外在校時間80時間以上の職員をゼロにする。	【○】 週80時間以上定時外で勤務する職員は、年間で0名であった。	・分掌・学年主任を中心に計画的に業務の効率化を図る。
	（６）グループ給食（親校）機能の充実	【○】 グループ校との円滑な運営ができた。	・継続する。
	（７）経営企画室の経営参画 ・担当者業務情報連絡会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める。	【○】 朝礼により進行管理は適切に実施したことから、遅滞なく教育活動を行うことができた。	・継続する。

## （２）令和3年度重点目標への取組と自己評価

### 【1】学習指導

①進級率（全体）90%以上 ⇒ 100%【○：達成】

②1学年進級率 80%以上 ⇒ 100%【○：達成】

### 【2】進路指導

③総合的キャリア指導計画に基づく指導の充実 ⇒ 【○：達成】

④企業訪問数 10社以上 ⇒ 12社【○：達成】

⑤進路決定率 90% ⇒ 93.3%【○：達成】

⑥資格保有率 80%以上 ⇒ 96.3%【○：達成】

### 【3】健康づくり

⑦給食喫食率 70%以上 ⇒ 84.7%【○：達成】

### 【4】募集・広報活動の充実

⑧学校広報活動の充実【△：一部達成】

・外部学校説明会への参加 ⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により計画通りには実施できなかった。

・案内パンフの更新 ⇒ 更新

・ホームページの活用 ⇒ 生徒募集や学校における諸活動等のお知らせに活用

### 【5】学校運営

⑨事故のない運営 重大事故0件 ⇒ 0件【○：達成】